

1

創刊号

July 2002

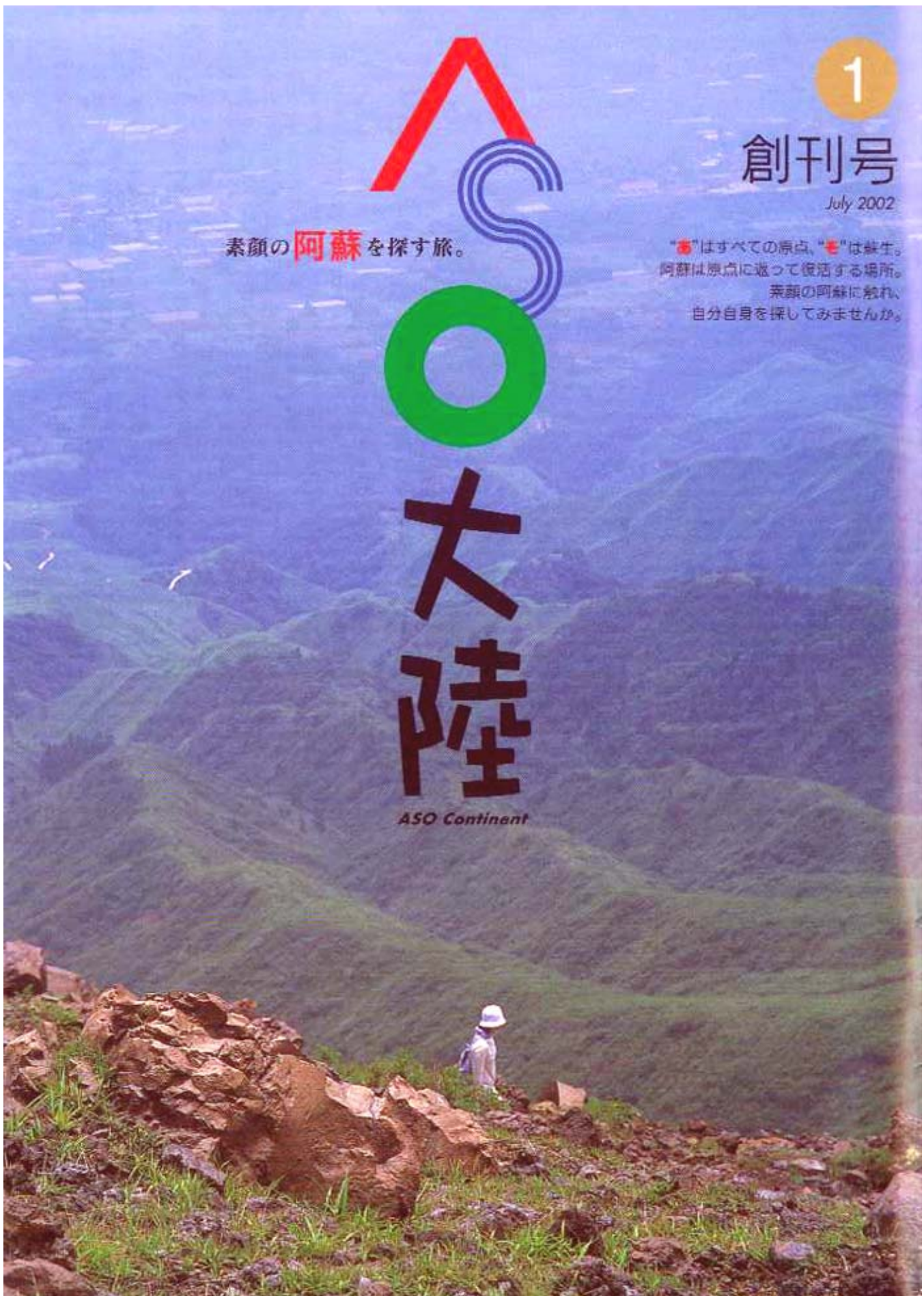
素顔の阿蘇を探す旅。

“A”はすべての原点、“S”は蘇生。
阿蘇は原点に返って復活する場所。
素顔の阿蘇に触れ、
自分自身を探してみませんか。



大陸

ASO Continent

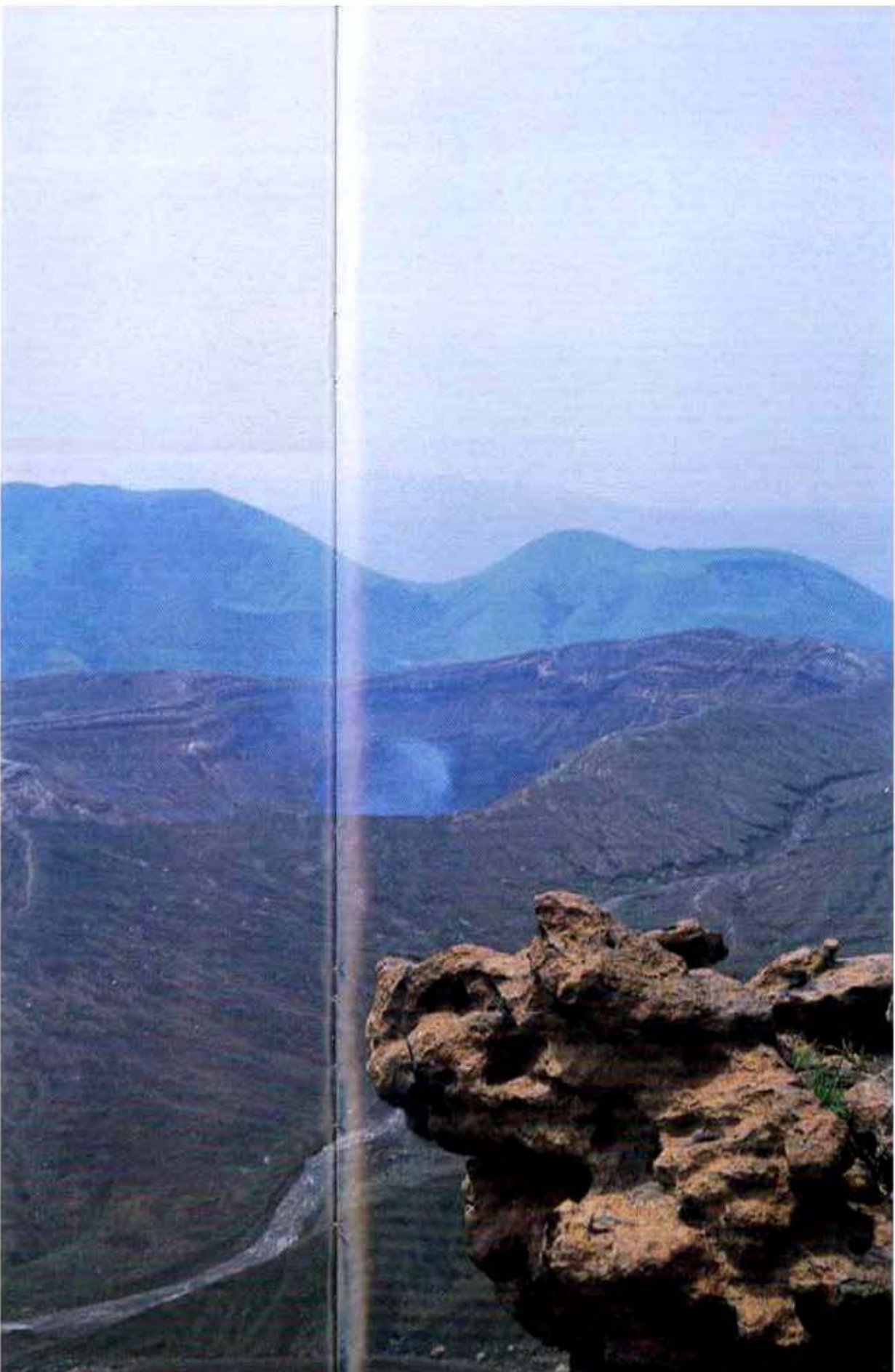


阿蘇遺産

SERIES ①

眼前に広がる阿蘇火山は、巨大なカルデラのできる原因となった約27万年前の大噴火によって誕生したという。その後人々は2万年以上前から阿蘇外輪山一帯に暮らし始めた。そのことは、北外輪山の火山灰層の中から見つかる多数の旧石器人の遺跡や遺物によって、また、その当時阿蘇谷・南郷谷に湖があったこともカルデラ内の堆積物から窺い知ることが出来る。これは阿蘇開拓の祖、健甕開命が外輪山を征服して、湖水の水を押し流し田畑を開いたという伝説と重なってくる。太古の昔から先人たちの暮らしによって守られてきた阿蘇遺産(自然、風景、伝統、文化)を今に引き継ぎ、新たな形で次の世代に繋げてゆきたい。

阿蘇の情報誌「ASO大陸」では毎号「阿蘇遺産」として私たちが残していきたい素顔の阿蘇を紹介します。



世界に通じる国際級トレッキングコースを阿蘇に創りたい。

阿蘇地域は、阿蘇くじゅう国立公園の特別保護区に指定され、多様な自然との接触ができる。トレッキングは草原や山麓を歩き風景を楽しむことであり、ありのままの自然道を生かしたコースづくりをすれば、阿蘇火山周辺や草原、ブナの原生林を含むカルデラ周辺は、ニュージランドやアメリカ合衆国に肩を並べる世界的なトレッキングのコース水準にまで達成させることが可能だ。

阿蘇カルデラは豊富な自然の宝庫

今も噴煙を上げる中岳火口や草千里、砂千里ヶ浜を中心とした世界的なカルデラ地形は、独特の自然景観資源の宝庫である。北外輪山には傾斜が緩やかで折り重なるように草原や牧草地が広がり、石畳の渓流や深谷などの水辺が草原の谷間に隠れている。また、南外輪山にはブナや馬酔木の原生林

など、驚くように美しい森が残されている。草原や湿地には、1500種以上の多様な植物が生育し、阿蘇以外ではほとんど見られない希少な植物もある。

阿蘇を歩く、知る、感じる

自動車で通過するだけでは決してわからない阿蘇の魅力は、自転車や徒歩でゆっくり味わおう。火口周辺や草原、森、田んぼの畦道、湧水を歩く、火山やカルデラ地形、歴史、文化、足元に咲く野の花、赤牛などの話をしてくれる若者達や地域ボランティアの案内などがあれば、思いがけない自然やカルデラ空間の素晴らしさを肌で感じる事ができる。今回は、世界級のトレッキングコースの設置が可能で中阿蘇火口、北外輪山、南外輪山の特徴的な阿蘇トレッキングを試験的に案内する。



Aso Heritage
阿蘇遺産



国際級トレッキングコースを歩く。



北阿蘇外輪トレッキング②

◆押戸山、甲の池

自然と人が手を携えてつくってきた阿蘇の草原。果てしなく広がるその風景のなか、まるでオアシスのように現れる溪谷——。さながら、優しく笑えられる。自然と人とのコンチエルトだ。

見渡す限り、ゆるやかに弧を描く草原の重なり。緑は、濃く、深く、翳と光で豊かな表情をつくる——。牧野の風景は、北阿蘇外輪の大きな魅力だ。

西瀬浦牧野のゆるやかな傾斜地を30分ほど歩くと押戸石山に到着する。山頂に並ぶのは、どう見ても故意に運んで組み立てた、としか思えない巨大

石の数々。俗に「鬼のお手玉石」とも呼ばれる巨石群は神を迎えるために置かれたのだらう。

か？ 石にはペトログラフ（古代文字）が刻まれ、今にいたるまで古代のメッセージが発信されているようだ。

牧野をさらに北へ向かうとマゼノ溪谷のある甲の池だ。「ここはヒゴタイやヤマキリシマの南限なんですよ」。山野草に詳しい湯浅隆雄氏が教えてくれた。広葉樹に囲まれ、澄みきった水が石畳を流れる溪谷は、春には新緑が、秋には紅葉が楽しめる。暑い季節には、一日中ここで水遊びをしても飽きないだろう。重なる草原と石畳の水のオアシスを歩くコースは優しい阿蘇の美顔に出会うことができる。



南阿蘇外輪トレッキング③

◆地蔵峠、廻返り峠

阿蘇は、広く、深い。草原や火口だけではない魅力を、ときに見せてくれる。例えば、ここ南阿蘇外輪に広がる落葉樹の原生林は訪れる人をしっとりと包みこむ、”もう一つの阿蘇の顔”である。



阿蘇にもこんなところがあったのかと思わせる南阿蘇のトレッキングコースは、森のフィトンチッドをたっぷり浴びることができる。最初の30分程度、南郷谷を見下ろす道が続くが、その後は主にブナの原生林が続く。落葉樹が多いこの辺りは、秋が格別。と案内してくれた地元の高瀬順生氏は言う。

「シーンと言わない世界に、サクサク、と落ち葉を踏み動物の足音が聞こえるんです」。もちろん、新緑の時期、光を透かせる朝え始めの若い葉の美しさは格別だし、夏の涼やかさも捨てがたい。コースの3分の1ぐらいの地点で、不思議なほど平らかなブナの原生林

に出くわす。天寿を全うした古木がしっとりと苔におおわれ、そこに馬酔木が共生している。積雲が宿っているような、凍と凍と、しかもやさしく手招きするような場所だ。

この辺りから駒返り峠までアップダウンはあるが、山つづじや山あじさいなど季節の花に見とれると疲れもいやされる。最もつらいのは駒返り峠から林道へ下るところ。若が（ろ）ころころがり、道らしいものがない。まさに駒（馬）では進めない険しさ。落ち葉を踏みしだく秋や新緑の春、そして岩の道……多面体の阿蘇を教えてくれるコースである。



Aso Heritage
阿蘇遺産

四国産トレッキングコースを歩く。





D 地点から見た火口壁。噴火時、横殴りの火砕流が流れることで、細い地層が形成された。

C 阿蘇火口群はまさに東洋の「グランドキャニオン」。中央が中岳火口。奥に見える緑の山は黒嶺了岳。

B 草が生えていない時代の地層は年代測定ができないため、地層の上下関係から予測する。

A 中岳山頂へ向かう途中の道は、一見、苔の苔のような新成地層に見える。実際は、崩れがあり危険はない。

中阿蘇火口トレッキング

◆仙酔峡・火口東展望所・中岳・高岳・砂千里ヶ浜 所要時間約3時間

30万年前から噴煙を上げ続ける阿蘇の火口群。見る方向によってその表情は驚くほど変化する。そして、火口周辺の岩山は、そのまま火山の「歴史博物館」でもある。大地に刻み付けられた「生きていく地球の証」が、ここにある。



Aso Heritage
阿蘇遺産
国際編トレッキングコースを歩く。

ミヤマキリシマで有名な仙酔峡が出发点。天を見上げると目的地である高岳山頂あたりに、どっかりと雲が腰をおろしている。ミヤマキリシマの群落が見られる隣のロープウェイ乗り場、阿蘇山東駅は標高900m。そこからロープウェイで約9分、標高1280mまで登ると登山道の始まりである火口東駅がある。ロープウェイの左手に見える歩道を徒歩で登っていくと50分ほどかかるそうだ。

この日は、火山ガスが強く、標高が上がるにつれて硫黄のにおいが、ロープウェイに入りこんでくる。そんな日は、心臓や気管支の弱い方は控えた方がいい。

登山開始から15分ほどで、火口東展望所（MAP A）にたどり着く。手前にエメラルドグリーンの中岳火口湯たまり、左手に濃いグレーの砂千里、遠くに烏帽子岳や草千里の鮮やかなグリーン、なんとも言えず美しい色のコントラストは、火口西側の観光客用展望所からは見ることができない奥行きのある景観であった。

中岳山頂へひたすら岩の道をたどりはじめ、途中、出会う地層の重なりが、火山活動の激しさを物語る。黄褐色の火山灰や火山砂などが幾重にも重なっている部分は、それらが土になる間もないほど絶え間なく火山活動が盛んだったことを証明しているんです。火山活動が比較的緩やかだった時代には火山灰が風化して粘土状の黒っぽい土になっているので、触ってみれば違いがわかります」と阿蘇火山博物館長、池田伸一郎氏が教えてくれた。



目的地の高岳へ到着。高岳のことを地元の人々は「ひごくに」または「ひごのくに」と呼ぶ。なんだろうと尋ねてみると、「高岳山頂の標高が1592mだから『肥後の国』を文字で『いる』ということである。確かに阿蘇谷から南郷谷、天気が良ければ、熊本市内までもが見渡せる。肥後の国が見渡せる場所なのだ。」

高岳から中岳方面へ来た道を下り、中岳から砂千里方面へ降りる尾根道を歩く。

途中、中岳火口のほうを振り向いた参加者が、「うわぁ」と言ったとき、言葉を失ってしまった。コースマップの②の位置だ。そこには火口西駅よりも、火口東展望所よりも荒々しいむき出しの阿蘇の素顔が広がっていた。彫刻刀で荒く削ったような火口壁の真ん中で、エメラルドグリーン色の湯たまりの水面が太陽にきらきら輝いている。痛々しい傷口のような火口壁。ダイナミックな荒々しさと、それとは対照的に美しい湯たまり……。地球の激熱を癒す光景。

さらさらの火山灰が一面に広がる砂千里まで下ると、まるで月面に降り立ったような気分になる。砂千里に表面の赤い、直径1.5mはある岩が落ちていく。そう言えは同じように赤く、もっと小さな岩を途中で無数に目にしてきた。京都大学火山研究センターの中坊眞氏のお話では、「マグマが火山弾となって飛んできた砂千里にはこんな美しいものが見られるんですよ」。中坊氏の指差す方向にあるのは、梅干の種のような形をした岩、ところがこの「梅干し」が、飛来した直後の形をそのままに残している証拠であり、学術的に「美しい岩なのだそうだ。」

草千里の向かいの阿蘇火山博物館では、火山の基礎知識や、阿蘇山の生い立ちなどが、わかりやすく解説されている。ここで火山について学んでおくと、阿蘇登山が何倍も楽しくなることは間違いない。

何十世紀も前に起きた噴火の爪跡と、いまこの瞬間に湧く緑の息吹を同時に体感できる阿蘇。このトレッキングルートは、空間だけでなく、何万年もの時間を一気に駆け抜けることができる。生きた博物館なのだ。



E 軽々と持ち上げているのは、噴火時に火山弾として飛んできたマグマ。ガスが抜け軽石状になっている。

ASO Design Center Information

(財)阿蘇地域振興デザインセンターは阿蘇郡12町村の地域づくり、観光振興、環境・景観保全、情報発信を行なっています。

EVENT情報

おんだ祭り(御田植神幸式)

『御田植祭り』『おんだ』と呼ばれるこの祭りは、阿蘇大明神が阿蘇開拓と農耕の道をおひろめになった御徳をたたえ、年々の豊作を祈るもので、藩政時代には細川侯の名代が参向する唯一の祭りであり、明治以降も本社の例祭とされ、年に一度御仮殿に大規模な神幸をされる重要な祭り。



期日 ●7/26(金) 7/28日(日)
場所 ●国造神社、阿蘇神社
お問い合わせ ●国造神社 TEL.0967-22-4077
阿蘇神社 TEL.0967-22-0064

阿蘇火の山まつり

御神火リレー、スポーツ大会、ステージショー、火の山総踊り、花火大会等、町民総参加の夏祭り。

期日 ●8/19(月)・20(火)
場所 ●町立体育館一帯
お問い合わせ ●阿蘇町役場商工観光課 TEL.0967-32-1111

長野岩戸神楽 定期公演

国選択無形文化財「長野岩戸神楽」の定期公演。

期日 ●毎月第2日曜日
時間 ●8:30~
場所 ●神楽の里公園「神楽殿」
お問い合わせ ●長瀬村役場産業振興課 TEL.09676-7-1111



野尻川ヤマメ釣り大会

約2kmの川で釣りを競い合う。地元おふくろ料理やヤマメつかみ取りも行われる。

期日 ●7/28(月)
場所 ●野尻川一帯
お問い合わせ ●高森町役場野尻出張所 TEL.09676-5-0211



おくに音楽祭

吉楽やフラメンコのセミナーです。火反響のフラメンコは初めての方でもレッスンを受けられます。

期日 ●9/22(日)
場所 ●木魂館
お問い合わせ ●小国町役場政策課 TEL.0967-46-2111

◆運賃は全コース3000円(別所駅、阿蘇駅間2000円、由布院駅、野川間1000円など)
◆お問い合わせ: ショールロード店の予約窓口
TEL.0967-46-2111 FAX.0967-46-2112



「あそ・ゆふ高原号」運行開始
JR九州観光バス
7月から大分県の別府、湯布院、熊本県の南小国町の黒川温泉、阿蘇の内牧温泉と九州を代表する4つの温泉地を巡る周遊バスを運行します。
特急列車「ゆふいんの森」号や「SLあそBOY」号と組み合わせると御利用下さい。一日1便毎日運行(10月からは午後便も増発予定)。

あなたが選ぶ
「阿蘇遺産」 Aso Heritage

残していきたい阿蘇の風景、伝統、文化、暮らし、自然など、あなたにとっての「阿蘇遺産」を募集いたします。ハガキまたはメールにて応募願います。応募いただいた方の中から抽選で10名様に、人気のトマトケチャップ入り「阿蘇ものがたり」詰め合わせセットをプレゼントさせていただきます。

◆TEL.0967-2612 熊本県阿蘇郡一の宮町宮地2402 (財)阿蘇地域振興デザインセンター 内 阿蘇遺産係
または、ホームページ「あなたが選ぶ阿蘇遺産」コーナーまで <http://www.asodc.or.jp>